

令和4年度大槌町総合開発計画評価委員会

令和4年度(令和3年度事業)
外部評価報告書

令和4年8月

大槌町総合開発計画評価委員会

1. はじめに

当委員会の目的は、行政活動の評価について、客観性と透明性を確保する場であるとともに、各委員の専門的知見から、町が実施する各施策が効率的かつ効果的に推進するよう、意見を述べる機関としております。

本報告書は、令和３年度の行政活動について、担当所属による内部評価結果の報告を受け、各評価委員の専門性や経験、見識等から、総合計画の推進状況を確認するとともに、各分野の視点から町の将来のあるべき姿などについて、各委員の意見をまとめたものであります。

当委員会では、令和３年度の目標達成度を全体的に評価できるものと捉えております。

しかしながら、人口減への対応など、難しい課題の解決には、今なお時間を要するものと考えております。

引き続き、「魅力ある人を育て新しい価値を創造し続けるまち大槌」の実現に向け、当委員会の意見を参考に具体的なアクションを起こし、着実な施策の推進を期待しております。

令和４年８月 大槌町総合開発計画評価委員会
委員長 後藤 力三

2. 令和4年度 大槌町総合開発計画評価委員会 名簿

	役職名等	氏名
1	大槌町教育委員会教育委員	大 萱 生 都
2	新おおつち漁業協同組合 代表理事組合長	平 野 榮 紀
3	ど真ん中おおつち協同組合 代表	芳 賀 政 和
4	花巻農業協同組合 大槌地区担当理事	佐 々 木 重 吾
5	大槌商工会 会長	後 藤 力 三
6	大槌町社会福祉協議会 会長	徳 田 信 也
7	大槌町観光交流協会 会長	千 代 川 茂
8	釜石医師会 副会長	植 田 俊 郎
9	釜石地区交通安全協会大槌支会 会長	岩 間 利 夫
10	大槌町連合婦人会 会長	古 舘 和 子

3. 令和4年度 大槌町総合開発計画評価委員会の概要

(1) 評価委員会開催日時等

開催日時	令和4年8月9日（火）午後5時30分～午後7時30分
開催場所	大槌町役場3階 大会議室
出席者	<p>【委員】大萱生 都 委員 平 野 榮 紀 委員 芳 賀 政 和 委員 佐々木 重 吾 委員 後 藤 力 三 委員 徳 田 信 也 委員 千代川 茂 委員 植 田 俊 郎 委員 岩 間 利 夫 委員 古 舘 和 子 委員</p> <p>【町】町長、副町長、教育長、防災対策課長、協働地域づくり推進課長、産業振興課長、学務課長、企画財政課長</p>

(2) 評価委員会の視点

評価委員会では、町が実施した実施計画に掲げる、施策を構成する事務事業及び施策評価の結果を基に、行政評価の4つの目的、「成果を重視した効率的な行政経営の推進」、「行政の説明責任の向上」、「町民の視点に立った行政サービスの向上」、「職員の意識改革」を踏まえ、意見をまとめて町に報告する。

4. 令和3年度大槌町総合計画実施状況について

(1) 令和3年度の取組み・総合計画目標指標の進捗について

＜第1章＞「産業を振興し町民所得を向上させるまちづくり」

●水産業について

魚市場の水揚げが昨今の異常気象等の影響により秋鮭を中心に不漁となっている中、サーモン養殖に力を入れていますが、世界情勢の影響もあり町内に十分な量が行き渡っていない状況です。関係機関との調整や、稚魚増産の取り組みが必要です。

●農業について

ピーマン栽培を中心に若い世代の生産者が増えており、自然なサイクルの中での世代交代が順調に進んでいるように感じます。

世界情勢の影響による飼料や肥料の物価高騰が問題となっているため、対策が必要です。

●観光業について

コロナ禍により全体的な観光客は低迷していますが、合宿誘致やジビエツアーでの誘客等もあり、新たな関係・交流人口の拡大に期待します。

＜第2章＞「健康でぬくもりのあるまちづくり」

●高齢者支援の推進について

指標である認知症サポーター育成が順調で、良い傾向です。高齢者の認知症対策には外出や運動など、虚弱を防ぐ活動が重要なため、これらの啓発活動や本人、家族へのサポートが必要です。

●新型コロナウイルスワクチン接種について

大槌町の新型コロナウイルスワクチン接種率は、他地域と比べ高い率ですが、今後はオミクロン株の流行が懸念されるため、幼少世代の接種率向上や、ワクチンの確実な確保が必要です。

＜第3章＞「学びがふるさとを育てふるさとが学びを育てるまちづくり」

●学びの推進について

GIGA スクール推進は、児童生徒たちがタブレット端末等を活用して意欲的に学習する姿を学校訪問時に確認でき、魅力的な学びの場づくりに寄与していると考えています。

自己肯定感を持った児童生徒の割合が増加傾向にあるのは、保護者、住民、教職員、行政が連携し、子どもたちが安心して学習や生活できていることの表れと考えます。今後も、より良い環境づくりに期待します。

＜第4章＞「安全性と快適性を高めるまちづくり」

●防災について

コロナ禍により訓練回数が少なく、目標回数は達成できませんでしたが、避難所の感染症対策実施や、感染症を踏まえた訓練を実施したことは高く評価すべきと考えます。

新たな津波浸水想定が県から発表されたことや、大雨被害が毎年のように全国的に発生していることから、町民の防災意識を一層向上させる取り組みが必要です。

●公共交通網について

大槌町地域公共交通計画が策定され、乗り合いタクシー実証運行も始まった中、これからの町の形に合わせた町民生活の足の実現に期待します。

＜第5章＞「将来を見据えた持続可能なまちづくり」

東日本大震災からの復興事業が収束し、町が新たな生活に向けて進んでいる中、新型コロナウイルス感染症の長期化や世界情勢の変化による物価高騰等の影響で、町民の生活や事業者が苦しい状況となることが懸念されます。

誰一人取り残されることの無いよう、必要な支援策を講じ、安心して生活できる環境づくりが必要です。

(2)令和3年度の主要事業について

①大槌町ジビエソーシャルプロジェクト

当事業の見学に県外の中学生在が教育旅行で訪れるなど、関係交流人口の拡大に寄与していると考えます。

今後は、獣の捕獲が食肉のみならず、獣害対策等につながるよう、更なるサイクルの構築に期待します。

②大槌町地域産業イノベーション事業

昨今の異常気象等によって秋鮭が不漁な中、養殖に力を入れている大槌サーモンが町内に十分行き渡るよう、稚魚増産などの取り組みが必要です。

③大槌町移住・定住促進事業

地域おこし協力隊の誘致が進む中、多方面にわたる地域おこし協力隊の活動が、新たな移住者獲得につながることを期待します。

④おおつちプロモーション事業

アニメーションを活用した町の魅力発信が、新たな層の交流人口獲得につながることを期待します。

⑤ふるさと納税特産品贈呈事業

寄附金額が年々増え続けており、当事業が町の財源確保に寄与していると考えます。町の地物を活用した返礼品による経済効果にも期待します。

⑥大槌高校魅力化推進事業

はま留学生は、自分の学びたいことを地域の中で活発に展開しており、その姿を見た町内の生徒達も刺激を受けているようです。留学生を支える体制づくりを地域の方々と協力しながら強化し、留学生が町に定住することを期待します。

⑦震災伝承プラットフォーム構築事業

震災の記録や記憶を東日本大震災を知らない世代等へ伝承するのは重要なことであり、伝承方法については、幅広い世代の意見を取り入れていく必要があると考えます。

⑧防災対策事業

新たな津波浸水想定が県から発表されたことや、大雨被害が全国的に毎年のように発生している中、避難路や避難場所の把握等、町民の更なる防災意識向上が必要です。

大槌町総合開発計画評価委員会設置要綱

令和2年8月13日制定

(設置)

第1条 この要綱は、大槌町行政評価実施要綱第6条の規定に基づき、大槌町総合開発計画評価委員会（以下「委員会」という。）の設置に関し必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 町が実施する行政評価の客観性及び透明性を確保するとともに、効率的かつ効果的な町政運営を推進する。

(所掌事務)

第3条 委員会は、次に関する事項を所掌する。

- (1) 町が実施した行政評価結果について、町民の視点で必要な意見を述べる。
- (2) 行政評価制度の改善について、意見を述べる。

(組織)

第4条 委員会は、次に掲げるものから、町長が委嘱する。

- (1) 教育委員会から推薦を受けた教育委員
- (2) 漁協団体の代表
- (3) 冷協、加工団体の代表
- (4) 農協団体の代表
- (5) 商工団体の代表
- (6) 学識経験を有する者

2 委員の定数は、10人以内とする。

3 委員の任期は、委嘱の日が属する年度末までとし、再任を妨げないものとする。

4 補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は、委員長が必要に応じて招集し、委員長はその議長となる。

2 委員会の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。

3 委員長は、必要があると認めるときは、会議に関係者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(報酬)

第7条 委員には報酬として、一回あたり3,000円を支払うものとする。

(費用弁償)

第8条 委員が委員会に出席した場合は、その費用を弁償する。

2 費用弁償の額は、車賃1キロメートル当たり25円とする。

(庶務)

第9条 委員会の庶務は、企画財政課において処理する。

(その他)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

この要綱は、令和2年8月13日から施行する。